

SOUND CREATE NEW ROOM

銀座の古いビルの7Fに位置する3部屋の試聴室のほか、6Fには新旧融合したシステムが並ぶ試聴室が誕生しました。新製品の真空管アンプやLINN「DS」にドライブされた銘スピーカー達が悠々と唄う姿は、細部の表現云々の前に“音楽”の神髄を感じさせます。また、福岡のレコードショップ Ninonyo厳選のオリジナル盤レコードも月替わりでご用意しており、アクセサリーも豊富に取り揃えております。音楽を味わいつくる新空間。ぜひお気に入りの一枚をお手元に、遊びにいらしてください。



AMERICA TANNOY GRF

1960年前後のアメリカ・タンノイのスピーカーシステム。英国製とは異なり、響きの明るい締まった材質のエンクロージャにより、音の厚みよりは色彩感を演出。シンプルなバックロードホーン構成は、定位の良い同軸型の特徴を引き出します。JAZZの本場、アメリカ向けの“ちょっと辛口”の気の利いた設計で人気絶えません。本来の特徴をLINN「DS」&「V40SE」で最高に開花させています。狙いは、研ぎ澄まされた定位感と吹き抜ける風のような低音。まさに！「DS」は“上質な生ワサビ”です。

AMPLIFIERS

往年の銘機をドライブする現代のアンプ群は、各ブランドのエッセンスが凝縮されたプリメインアンプを取り揃えました。当時から定評のあるマッキントッシュは新製品のMA6600。日本が誇るACCUPHASE。ドイツの質実剛健さと音楽性を兼ね備えたTRIGON。真空管アンプメーカーのOCTAVEは、新製品のV40SEもV80もスピーカーによって真空管を変えられるのが嬉しい。その他、様々なアンプをご用意。ソースはLINN「DS」の他、各社CDPでお楽しみください。



JBL D34001 Harkness

JBLの最大の真価は“高効率と低歪の両立”です。システムナンバー001。130Aと175DLHを持つHarknessは、その最初の成功作です。JBLはホーンを短くすることで、ダイアフラムにかかる圧力を下げて歪を回避しました。130Aはウーファーでありながら、100dB/W/m以上の高効率とフルレンジ並みの広帯域を軽い振動板と強力な磁気回路で実現しました。当時のアンプは、出力が少なく歪が多かった為に、スピーカー側の能率を上げることで等価的に歪を目立たなくさせていたのです。と云う事は、歪の無いDSで現代の高出力真空管アンプを用意すれば、誰も体験した事のない、本当の“Harkness”の魅力が体験できます。

JBL Model4350 (ウォルナット仕上げ)

「家庭でモニタースピーカーを使うのは間違っている！」という方もいらっしゃるかもしれませんが、囁くような微音から湧き出るようなフルオーケストラのトゥッティまでを至近距離で再生できるモニタースピーカーが適さない訳がありません。しかもフラットな周波数特性・ノンカラーレーション・低歪など…これこそ、スタジオマスター音源を聴く為のスピーカーです。是非、KLIMAX DSでお聴き下さい。30年後にして、やっと相応しいソース機器に出会えました。こころなしかスピーカーも嬉しそうです。

LINN「DS」、OCTAVE、NuForce 全ラインナップご試聴頂けます。

【取り扱いブランド】

LINN / PIEGA / B&W / Sonus faber / JBL / ELAC / VERITY AUDIO
Davone / Anthony Gallo / HARBETH / Mark&Daniel / OCTAVE / TRIGON
McIntosh / NuForce / N-mode / QUADRASPIRE...etc



〒104-0061 東京都中央区銀座5-10-6 第一銀座ビル7F
☎ 0120-62-8166 URL: www.soundcreate.co.jp
🕒 12:00~19:00 毎週火曜日/第2月曜日(ex.祝日)
地下鉄銀座駅A3出口より徒歩3分



往年の銘機を現代のシステムで鳴らす

誰もが一度は憧れ、羨望の眼差しを向ける往年の銘機たるスピーカーたち。当時の、これもまた銘機と呼ばれるアンプでドライブされ、時代を超えてオーディオ愛好家を魅了し続けてきました。サウンドクリエイトでは、革新的な技術や斬新な発想で注目を浴びる現代のシステムでヴィンテージスピーカーをドライブしています。これまでにない驚きや発見に出逢えるはず・・・。



その姿に誰もが驚き、一度は聴いてみたいと願う往年の銘機JBL「Paragon」。

半年前に衝動買いするまで、Aさんも「知ってはいったけど自分で持つとは思わなかったとか。Aさんが次々と「こういうのが好き」とかけてくれた音楽は「ビートルズ、ブルースのJAZZ、古楽器で演奏されたヴィヴァルディの四季、80年代ロックのブラックパレード、極めつけは1975年録音の吉田美奈子(参加しているメンバーは細野晴臣、山下達郎、矢野顕子など今見ると豪華な面々)」とジャンルを問わず様々に及びます。

JAZZを、特にヴォーカルを聴くときはパラゴンにかぶりつくように前のめりで聴き、クラシックの大編成は椅子をぐつと後ろにひいて聴く。レコード、DSのデジタル音源で音楽を楽しむ比率はほぼ半々。

「好きなものを好きなように聴く」という姿勢は、音楽に対する自然な接し方を感じます。プレイヤーは「LP12」のスタイルに及びます。

タンダードと「SNEAKY DS」どちらもLINNを選択。JAZZやクラシックはほとんど聴かなかったというAさんがオールジャンルを聴くようになったのは、LINNを導入したところからなのだそうです。昔買ったレコードの中に、ロスター・ヤングとか、有名どころは混ざっていたけど、面白くなくて全然聴いてなかった。試聴させて頂く前に、「ヴィンテージにDSはどうですか?」と伺うと、「全然違和感無い」と一言。「DSの方がよく聴こえる時もあるくらい」。

聴きながらその違和感のなさに納得し、驚いたのはかかる音楽によってパラゴンがクルクルと表情を変え部屋の雰囲気ガラッと変わること。現代のシステムで再生しドライブされたスピーカー自身ずいぶん楽しんでいるように感じます。大人のやんちゃさを持ったこのスピーカー。増え行くレコードとCDに囲まれて、「まだまだこんな表情があるんだよ」と今日もAさんを魅了して止まないようです。



ご使用システム

- ・JBL PARAGON
- ・LINN SNEAKY DS
- ・LINN SONDEK LP12(アーム・AKITO/カートリッジ・ADIKT)
- ・LINN MAJIK KONTROL(内蔵PHONO 使用)
- ・LINN KLIMAX CHAKRA TWIN

JBL D44000 Paragon

スピーカー史に残るオールホールD44000 Paragon

「圧倒的な中域の密度感とちよつとナローでモノラル的とわれている方ユニット構成は銘機ハーツフィールドにトワイターを追加した設計つまり、現代の装置で適切にシステムを構成すると実にワイドレンジな再生が可能で、現代のデハイスでシステムを構成すると、意外とワイドレンジなものです。ただホーン部は5371512から高音レンズを外しているため音が広がりにくいのは否めませんが音響レンズで拡散されない為歪は耳を刺します。そこへ砲弾型のイコライザーを搭載した075トワイターもまた低歪を要求します。

今までは、ナローな装置で自立たないようにチューニングでカバーしていただくのを、低歪なDSなら特徴をそのまま活かせるのです！ワイドレンジで素直な真空管アンプと相性がよいのは当然のこと、低歪の上質なトランジスタとのマッチングも素晴らしい。

結論 高効率オールホールスピーカーとDSは蜜月の関係となるのです。